

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270300134
法人名	社会福祉法人 真心会
事業所名	グループホーム るんぴにい苑
所在地 (電話番号)	出雲市園町2606-1 (電話) 0853-67-0810

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成19年12月5日	評価確定日	平成20年2月6日

## 【情報提供票より】(19年11月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	4 人

### (2) 建物概要

建物形態	<del>併設</del> 単独	<del>新築</del> 改築
建物構造	木造平屋建て 造り 階建ての 階 ~ 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,480 円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	出雲市立総合医療センター
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体の特別養護老人ホーム設立時より、地域密着を重要視した理念のもと事業展開を行い、平成年に、より地域住民のためにと設立されたホームである。ホームは、緑に囲まれ四季折々の表情を見ることができ、自然を身近に感じることができる。また、地元自治会と共同で各種イベントを開催するなど、地域に根付いたホームである。ケア内容も、入居者を第一に考え支援するなど、本人を尊重した支援はもちろん、「自立への援助」にこだわりを持ち、本人の能力を活かしながらの支援が展開されている。また、管理者、職員共に常にホームの質の向上を目指しており、各種研修会の参加をはじめ、職場内での積極的な協議など、職員個々のスキルアップも含め、日々のケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で改善課題としてあげられている介護計画の見直しについては、定期的な見直しが行なわれているのははじめ、より本人のニーズを引き出そうと、本人、家族と話し合う時間を多く持つなど改善されている。また、状態の変化があればその随時協議がなされ、現状に即した計画がされるよう取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員ともに評価を行う意義を理解しており、前回の評価で課題として挙げられている項目をはじめ、それ以外の項目についても検討し、よりホームの質の向上に向けた積極的な姿勢が見られる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族会代表、地元町内会長、民生委員、行政関係者をメンバーとし、2か月に1回、定期的で開催している。ホームの運営状況、行事の報告をはじめ、ホームのあり方、役割など、活発に議論され、それをホームの運営に活かそうと取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時には話を聞き意見を聞きだすようにしている。また意見箱の設置や家族会の開催等、家族等が遠慮なく意見を言えるような環境を作り、そこから出た意見は職員間で話し合い、運営に反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームが「地域密着型サービス」として位置付けが変更になっているが、法人設立時より、地元自治会との共同でイベントを開催したり、地域の幼稚園、小・中学校との交流会を持つなど、地域との連携は、積極的に行われている。後に開設したこのホームも、法人の理念に基づいた事業展開をしており、地域との連携が図られている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として、地域密着を含めた理念が定められており、ホームもその理念に沿い運営を行っている。その結果、地域との関わりも強く、地域に根付いたホーム作りがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見やすい場所に掲げるなどし、共有する仕組みができており、職員が理念を十分に把握している。それを基として入居者を第一に考え、支援に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人設立時より、地域との関わりは重要項目として挙げており、それを基に事業展開を行ってきた経緯がある。現在も、地元の小中学校をはじめ町内会との連携も強く、合同での防災訓練の開催、自治会イベントへの参加など、積極的な交流が行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員共に評価の意義を理解しており、この結果を基に、さらに質の向上を目指す姿勢がうかがえた。また、前回評価時指摘のあった項目についても、改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、地元町内会長、民生委員、行政関係者をメンバーとして、2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催し、サービスの提供等、報告し協議している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者との協議する機会を多く持つなど、市町村との連携についても図られている。その結果、気軽に相談できる関係が構築され、ホームとしても市役所を活用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時を利用して、ケア方法の変更や日々の暮らしぶりなど個々に合わせ報告を行っている。金銭管理については帳面を確認してもらい、署名捺印をとる仕組みが作られている。また2か月に1回程度、法人の広報とは別に、ホーム行事や個々に対するコメントを書いたホーム独自のお便りを発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し家族が意見しやすい環境を作っている。また、年に2回家族会を開催し、そこで出た意見を運営に反映させるよう取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動等による入居者へのダメージを十分に把握しており、法人内に複数の事業所を運営しているながらも、ホームと他事業所の異動は極力避けるなど、影響を最小限にとどめる配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月に1回の定期的な研修を始め、外部研修への積極的な参加など、職員を育てる取り組みがなされている。併せて、職員個々も、更なる知識及び技術の習得など、自己研鑽に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参画し、情報交換、事例研究等を行いながら、ホームの質の向上に向けた取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問や、事業所の見学、体験などの馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や季節行事、また普段の生活から、利用者に教えてもらう場面を多く設け、支え合う関係を築いている。ただ、利用者の介護度の重度化に伴い、利用者一人ひとりによりそうケアが困難になっている部分もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の希望や意向を聞きだすよう努めている。本人の意向把握が困難な場合には、職員の都合にならないよう注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴や趣味等の把握がなされ、それを基に計画が作成されている。また、随時本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しはもちろんのこと、入居者の状況により随時見直しが行われている。このことは、定期的なカンファレンスのみでなく、日々の業務でも協議されるなど、職員間の共有面についても仕組みが出来上がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、母体である特養やデイサービスとの連携も図るなど、多機能性を活かした支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医をそのままかかりつけ医とする事を基本とし、対応している。また、事情によりかかりつけ医を変更しなければいけない場合は、本人・家族と十分協議を行い、意向を尊重しながら決められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアについては、本人・家族等との意向を十分に尊重し、対応する体制ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りや尊厳について、都度意見を出しあい、共有・見直しを行い、職員の意識の向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならず、利用者一人一人のペースに合わせた本人主体の生活を送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの状況に合わせて、刻み食、ミキサー食等対応している。また、入居者と共に準備、食事、片付けは実施されており、楽しみながらの食事の支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に沿った支援がなされている。現在は夜間入浴の実施はしていないが、個別に対応することも可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事や家事で力を発揮できるよう役割を見出している。また、法人全体の行事に参加したり、遠くへの外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームとしての外出行事、週3回の買い物外出をはじめ、入居者それぞれの希望にも合わせ支援されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体の特養とともに避難訓練を行うとともに、毎月避難訓練を実施し、地域への協力依頼もされている。また救急時の対応も、定期的に講習を受け、対応ができるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。また、利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力にあわせ柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、使い込まれたテーブル、椅子が置かれるなど、居心地良い空間作りがなされている。そのほかの共用スペースについても、空気の上よみもなく、家庭的な雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンス、テレビをはじめ、編み物や園芸など趣味用品など、持ち込みが多く、それぞれの空間作りがなされている。		